



気候変動適応策

～グリーンインフラを活かした水害に強いまちづくり～

グループ名：気候変動チーム

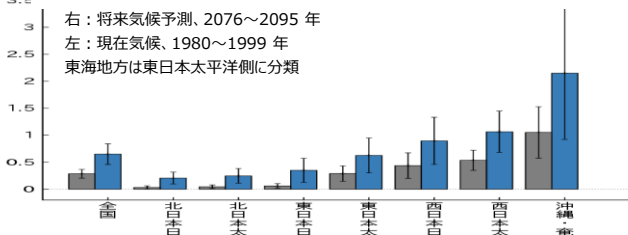
メンバー：望月 晴仁、荒井 由樹子、稲垣 寛子、小島 徳久

チューター：杉山 範子、東海林 孝幸

現状の把握

出典：地球温暖化予測情報 第9巻（気象庁）

1時間降水量50mm以上の1地点あたりの発生回数の変化



●東海地域の主な豪雨災害

- H12/9 東海豪雨（1時間雨量114 mm）
- H20/8 岡崎市（1時間雨量146.5 mm）
- H23/7-9 豪雨災害 etc.
- H29/7 小牧・犬山市（1時間雨量120 mm）

気候変動に伴い予想される集中豪雨や浸水被害の増加に
適応するため、インフラ老朽化への対応も含め、生活への影
響を最小限にする必要がある。

- ・人口減少
- ・予算不足
- ・時間不足

従来の治水整備
継続は困難

提案の内容

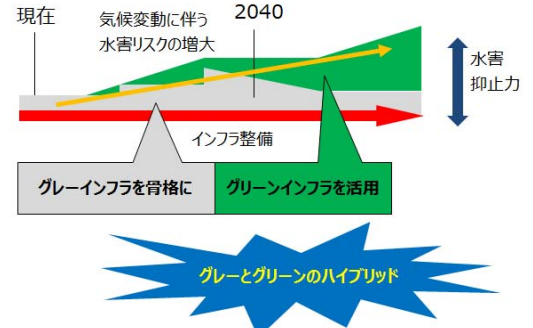
モデル地区（大口町と五条川）

1. 東名・名神高速道路に接続する国道41号が縦貫
2. 産業地域としての多くの工場が立地
3. 農業が盛んで古くから栄えた城下町
4. 2017年7月の豪雨による浸水被害が記憶に新しい



大口町へのグリーン
インフラの適用例

20年後に向けての提言の概要



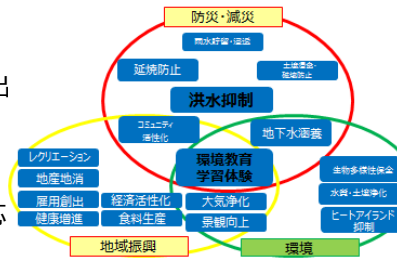
グリーンインフラストラクチャーを 活用したまちづくりの提案

- 豪雨の際にも慌てない、安全・安心なまち
- 水災害の影響を最小限にとどめ、起きた後の復旧が早期に実現できるまち
- 人口減少、超高齢社会に対応した持続可能なまち（高齢者に優しく、魅力ある町に人は集まる）

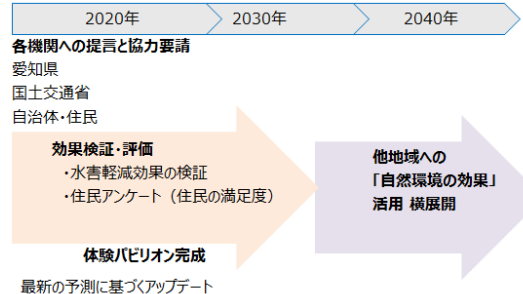
波及効果

グリーンインフラの多様な効果

- ・魅力あるまち・雇用創出
- ・下流域の氾濫低減
- ・環境意識の向上
- ・クールスポット創出による地球温暖化への適応



提案実現のための具体的な取り組み (アクションプラン)と実現可能性



最新の予測に基づきアップデート